報道資料

2023年1月18日
NHK広報局

防災プロジェクト「命をまもる 未来へつなぐ」 備えを考える一助に

「命をまもる 未来へつなぐ」

今月スタートした防災プロジェクト「命をまもる　未来へつなぐ」。東日本大震災から12年となる3月は、近い将来起こるとされる「南海トラフ地震」に焦点をあてた番組を放送します。NHKスペシャルのシリーズでお伝えするだけではなく、全国の地域局とも連携し、安全・安心を支える取り組みにつなげます。公共メディアとして改めて「備え」について考えていきます。

NHKスペシャル「南海トラフ巨大地震」

近い将来、確実に起こるとされる「南海トラフ巨大地震」。

ドラマ×ドキュメンタリーで描くリアルな脅威。

国が示す“最悪ケース”は M9 クラスの地震が一度に起こることを想定していますが、それに匹敵して、多くの専門家が警戒するのは、東西日本で、時間差で M8 を超える巨大地震が連続する“半割れ”と呼ばれるシナリオです。国は、“連鎖する巨大地震”に備えて、4年前に事前避難を求める「臨時情報」の仕組みを整備、対策を強化し始めています。

本シリーズでは、高知・大阪・東京の3拠点を“ほぼリアルタイムドラマ”で描きながら、南海トラフ地震の想定被害の全容を、それぞれの地域に暮らす家族の目線で明らかにしていきます。また、南海トラフ特有の被害と、最新研究をもとにしたリスク、防災対策を多様な切り口で取り上げます。

第１部（前編）悪夢へのカウントダウン（仮） G **3月4日（土）午後7時30分～午後8時48分**

第１部（後編）最悪のシナリオを超えて（仮） G **3月4日（土）午後10時～午後10時54分**

「半割れ」シナリオを科学的知見に基づいてドラマ化

ドラマは、大阪で町工場を経営する森澤一家、高知で暮らす両親、東京で暮らす妹を軸に、刻一刻と変わる被災状況を、人間模様と合わせて身近な目線で複合的に描く。いつもと変わらない一日が、和歌山県南方沖を震源地とする M8.9 の巨大地震で一変。家族は音信不通、安否がわからなくなり―。近畿や四国を“揺れ・津波・火災”の三重苦が襲い、死者も多数。その後、名古屋や静岡など揺れの小さかった東側でも巨大地震のリスクが高まり、気象庁は「臨時情報」を発表。被災地を支援すべきか？自分たちのために備えるべきか？大きなジレンマに陥っていく。そして１週間後、恐れていた“半割れ”が発生してしまう・・・。

〈主な出演者〉 仁村紗和、松尾諭、高野志穂、宮田圭子、中原丈雄、高橋克実

第2部　巨大地震にどう備えるか（仮） G **3月5日（日）午後9時～午後9時59分**

「最悪シナリオ」にどう備えるか。最新のルポを交えてヒントを提案

「南海トラフ巨大地震」は、日本全体、そして私たちにどんなダメージをもたらすのか？最新の研究から、最初の地震で被災した場所に十分支援が届かない可能性や、長期にわたる経済低迷のリスクが浮き彫りになってきた。番組では、「避難に時間的猶予がない地域でどう命を繋ぐか」「長期の避難生活をどう乗り切るか」「命を守りきるための医療体制」「事業継続のために必要な備え」など、被害を最小限に抑える模索とヒントを専門家と共に、VTR とスタジオで紹介していく。

東日本大震災から12年　多様な視点で

NHK は、東日本大震災の発災直後から12年にわたり取材を続けてきました。
安全・安心を支える公共メディアとして、これからも被災地を見つめ続けます。

NHKスペシャル「海辺にあった、町の病院(仮)」 G **3月11日(土)午後10時～午後10時49分**

津波被災を象徴する場所の1つとなった石巻市立雄勝病院。患者と職員の9割が命を落とし、残された病院関係者や住民の多くは、固く口を閉ざしてきました。地域の心の拠り所でもあった病院であの日、何が起きたのか。命を守る人の命のあり方とは…。問いに対峙し生きた人たちの12年をたどります。

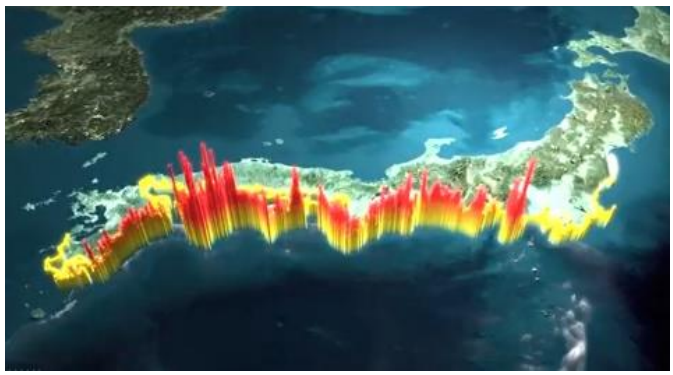
今回のプロジェクトでも、東日本大震災について様々な視点や切り口でお伝えします。

NHKスペシャルでは、国の復興事業がほぼ完了した津波被災地の現状をデータジャーナリズムの手法で可視化し解析する番組も予定しています。
また、震災の発生から12年を経て、若者へと成長した被災地の子どもたちを見つめるドキュメンタリー、さらに原発事故の最新の調査報道などを準備中で、クローズアップ現代等も関連番組を予定しています。

地域局との連携できめ細やかな情報を

３月には、東海・首都圏・東北・北海道の各局で、東日本大震災などをふまえ、南海トラフ地震、首都直下地震や千島海溝沿いの巨大地震など今後各地で懸念される地震への備えについて見つめなおし、きめ細かく情報を発信していきます。

NHKスペシャル「南海トラフ巨大地震」の放送後には、西日本を中心に1週間にわたって各地域局で関連のニュース・番組を放送していきます。大阪局で防災に関するイベントを開催するなど、一部の地域ではイベントを通じて視聴者とともに考える取り組みを計画中です。



東日本大震災関連番組

ハートネット TV

生きがいを守り抜く～原発被災地の訪問診療医～（仮） NHK E **3月７日(火)午後8時～午後8時30分**

原発事故による避難指示が解除されて５年になる福島県飯舘村。帰還した人の多くは 65 歳以上の高齢者だ。いま課題となっているのが医師不足。クリニックはただ一つしかなく、自力で行けないため治療を受けられない人もいる。その村におととし、老医師が移住してきた。山谷などで孤立する人を支えてきた在宅医療のスペシャリスト。「病気を治すだけでなく、一人一人が望む暮らしを叶えることが生きがいにつながる」と言う。老医師と村人たちの日々に密着した。

あれから12年～14 時46分被災地の祈り～（仮） G **３月11日(土)午後2時30分～午後３時**

2011 年３月 11 日 14 時 46 分に起きたマグニチュード９の巨大地震と、その後起きた大津波や原発事故。東日本大震災では2万人以上の命が奪われた。各地ではこの時間、亡くなった人たちを偲び、あるいはあの日以来の歩みに思いを馳せ、多くの人たちが黙祷を捧げる。少しずつ姿を変え、前に進んできた被災地。変貌する各地の風景。一方で変わらない思い…。人々が動きを止め、沈黙に包まれるこの時間。各地の祈りの様子を中継で結び、人々があの日に思いを寄せ、心の声に耳をすませる時間としたい。

明日をまもるナビ

あの日、何をしていましたか？（仮） G **3月12日(日)午前10時5分～午後10時50分**

2020 年以来、仙台局が続けている「あの日、何をしていましたか？」プロジェクト。”あの日”体験したこと、感じたことを 150 文字以内の文章で募集。月日が経つにつれ忘れ去られてしまう”震災の記憶”を留めるものとして注目されている。これまでの投稿は 1700 件。特徴は、投稿者の半分が被災した東北3県以外の人。20～50 代の女性が数多い。仙台局ではこれまでに、朗読会や投稿者の座談会など、様々な手法で〝あの日の記憶〟をつなげてきた。３年の歩みを全国放送で紹介するとともに、誰かの“あの日”にまつわる小さな声に耳を傾ける。

311にありがとうを伝えよう委員会2023（仮） G **3月11日(土) 時間未定**

東日本大震災で被災した人たちが、家族や友人、お世話になった方々に、これまで言えなかった『ありがとう！！』の思いを伝え、震災以来の歳月をねぎらいあう番組。2021年に第１回が行われ、今回で３回目を迎える。311 を”感謝の日”へと読み替えようという取り組み。今年も、いくつもの“ありがとうの物語”から、人々が歩んできた 12 年間を見つめる。

※この他、**東北地域で毎週金曜放送の「東北ココから」（午後７時 30 分～57 分）**では、
震災の「記憶の伝承」について考える企画や、この12年間に詠まれた震災短歌から
被災地の記憶と人々の思いを見つめる企画などを放送する予定です。

2月10日 G 「語り部クロス　東北の語り部×全国の語り部」（仮）（東北ブロック）
2月17日 G 「震災を詠む　～三十一文字に刻まれた心の軌跡～」（仮）（宮城県）
3月10日 G 「あの日、何をしていましたか？」（仮）（東北ブロック）